

# コロナウイルス感染症 (COVID-19)の推移

大曲貴夫 OHMAGARI Norio/国立国際医療研究センター病院国際感染症センターセンター長

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は当初重症化リスクと死亡リスクが高いため、流行時には集中治療が可能な病床の不足が懸念された。流行株がオミクロン株に変化し、国民のワクチン接種率が上昇してからは、臨床像もやや通常感冒に近づき、重症化リスクと死亡リスクは著明に低下した。しかし一方で流行は波ごとに大規模化し、結果として第6波では高齢者を中心に多くの死亡者が発生した。今後はこの軽症化した多くの患者に対応できる医療体制・公衆衛生体制を構築し、医療施設と介護施設の感染防止対策と診療体制を改善することで死亡リスクの高い高齢者を守っていく体制を作る必要がある。

## KEY WORDS

- ・新型コロナウイルス感染症
- ・COVID-19
- ・オミクロン株

## 1 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)

コロナウイルスはエンベロープをもつRNAウイルスである。従来、感冒を含む急性気道感染症の原因ウイルスとして4種類のコロナウイルス、およびSARSコロナウイルス(SARS-CoV)とMERSコロナウイルス(MERS-CoV)が報告されていた。

新型コロナウイルス感染症は、2019年12月に中国の武漢市で初めて患者が報告された。武漢でのアウトブレイクで患者から検出されたコロナウイルスが、severe acute respiratory syndrome coronavirus (SARS-CoV)とウイルス学的に類似しているため、SARS-CoV-2と命名された<sup>1)</sup>。また、

WHOは本ウイルスによる感染症の呼称をcoronavirus disease 2019 (COVID-19)とした。

## 2 COVID-19の臨床的特徴：ワクチン普及以前、デルタ株流行以前

ここに、主に日本国内でワクチン接種が開始される以前に得られたCOVID-19の臨床的な特徴に関する知見を記載する。

COVID-19の潜伏期は平均5.2日、感染源の発症から二次感染者の発症まで7.5日と報告されている<sup>2)</sup>。臨床的な発症の2日程度前から他者への感染性があり、発症後7～10日程度まで感染性が持続する。

COVID-19は軽症例では一般的な

感冒と同様に咽頭痛、咳などの気道症状を来す。通常の感冒は発症後3～4日目に症状のピークを迎え、発症後7～10日程度の間に徐々に軽快していく。しかしCOVID-19の特徴として、発症後3～4日を過ぎても症状が改善しない。具体的には、咽頭痛や微熱などの軽いかぜの症状が1週間程度続いたあと、徐々に軽快していく。軽症者の病悩期間の平均が16.7日であったとの報告がある<sup>3)</sup>。軽症の患者でも胸部CTスキャンなどで精査すると肺に陰影が認められることが多い<sup>2)</sup>。COVID-19の特徴として味覚・嗅覚異常がみられる場合がある。88人のCOVID-19患者のうち、問診可能であった59人を調査したところ、33.9%に嗅覚または味覚障害のいずれ